

『情報Ⅰ』の試験時間について

(内容との関係)

- ・『情報Ⅰ』の幅広い領域において、共通テストの問題作成方針にある大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等の資質・能力を測るためには、一定の時間確保が必要である。特に、プログラミングやデータの活用の領域に関する資質・能力を測るためには、それぞれ問題発見・解決の過程を通して、文脈を把握しながら思考する活動に取り組ませる大問形式での出題が必須であることから、とりわけ時間を要する。(試験時間が足りない中で問題数を確保しようとする、全体として、個別の知識を問う問題に偏らざるを得なくなる。)
- ・関係学会からも、『情報Ⅰ』について十分な試験時間を確保すべきとの提言あり。

情報処理学会『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告』に関する意見(2021年8月4日)

人工知能学会『令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告』について(2021年8月16日)

(『情報関係基礎』との関係)

- ・『情報Ⅰ』の出題内容は、データの活用やプログラミングなど、現行の『情報関係基礎』(数学②)では出題されていなかったり選択問題であったりするものを含む、より幅広い内容となるにも関わらず、試験時間では『情報Ⅰ』のほうが『情報関係基礎』(60分)よりも短くなることは合理性を欠くことにならないか。

(他教科・科目との関係)

- ・過去の共通1次・センター試験では、一つの教科で60分より短い時間としたものはない。
 - 現行の理科の基礎科目(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)は、1科目あたりでは30分50点であるが、必ず2科目以上を選択することになっているため、教科としては最低でも60分、100点分の問題となっている。
 - 地歴・公民の2単位の科目である世界史A、日本史A、地理A、現代社会等はいずれも60分100点であった。